

<白金標準先物、7月の再来であり、3800 円への回帰相場・・・>



(出所：オアシス)

中国四川省では、長江の水位が熱波により低下した事で水力発電の発電能力が低下し、四川省のトヨタ、WV にアップル製品を製造する鳴海などが2週間操業停止を余儀なくしている。また成都市では、700人の感染者が発生し、2日～5日に掛けて全市民が対象にPCR検査を実施するため事実上のロックダウンへ入る。中国GDPで7番目の大都市であり、2ヵ月続いた上海市のロックダウンの懸念が浮上している。

そのためジャクソンホールから週末の雇用統計まで中国要因を受けて白金標準先物は、3800円から3614円まで下値を模索している。また欧州ではノルドストリーム1の2日の再稼働が延期されるなど、EUにおけるインフレを高める要因となるなど、様々なリスクが織り込まれている。

特に今週は中国上海市でプラチナ・ウィークが開催され、5日はWPICが第2四半期PGM需給報告を発表する予定であり、また8日はECB理事会の開催、9日はEU各国のエネルギー担当者の臨時会合が開催される予定である。そのため需給バランスの見直しや利上げに伴うユーロの巻き戻し、天然ガス価格の上限設定など3800円から3614円まで下落した要因の巻き戻しが予想される。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げ渋り、シグナルは下げている。RCIでは短期が—80%以下で推移しながら、長期が下げ続けており、弱気の域と思えるが、7月のオシレーター同様に底張りの動きであり、買い妙味ありと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,943,000 円(2022 年 9 月 5 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 9 月 5 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>